

福井夏休み合宿

2020.8.7~9 山下隆

昨年4月、西の鯖街道（小浜→美山→京北→京都）を数人で歩いた時、京北ゼミナールでBBQ夕食を楽しんでいる時に、私の妻の実家（越前海岸）をベースキャンプにして、福井の山歩きをしようとの計画が持ち上がった。実行に移すべく、情報収集すると、雪解け後の5月は高山植物・白山の雪景色あるいは水芭蕉・・・魅力的な山が沢山あり、林間施設も充実していることを知る。そこで今年5月半ばに4泊5日・5山の例会を提案した。ところが、5月は新型コロナの第一波の時と重なり、緊急事態宣言が発令され、他県への移動は難しくなり当会でも例会中止が決められ、楽しみにしていた例会は中止せざるを得なかった。

新型コロナも少し落ち着いてきたし、ステイホームの掛け声でのストレスからも解放したい気持ちもあり、急遽福井実家での2泊位の夏休みを計画した。昔の家なので開放的で、海からゼロメートルの所にあるので夏休み向きの別荘ともいえる。時期は梅雨明け。福井に行く途中には低山に登り、あまり無理をせずに海や川で楽しめる企画も入れて・・・中日はのんびりと温泉・海と戯れ・観光・皆で料理作りを楽しむなど。参加者からもアイデアが出てくる。

最終的には以下のごとき越前実家での夏休みとなりました。

8月7日；岩籠山(765m)登山組と沢登り組に分かれる。日帰り組(4人)と宿泊組(9人)。

2日目(8/8)；のんびりと朝寝をむさぼり、アジ釣り・観光・越前蕎麦。皆で料理。

3日目(8/9)；余呉トレイルのひとつの大黒山891m。登山口500m。目玉はブナ林。

具体的には、山行報告や皆様の感想文で雰囲気を感じていただければと思います。来年の5月には今年5月に実施する予定だった福井の山の例会を提案したいと思っています。新型コロナの蔓延が収まっていることを期待して。

今回の夏休みの実施にあたり、近畿地区山岳連盟・京都府山岳連盟が提唱している「withコロナ時代の再開ハイキングドライブ」を事前に共有した。完全実施は難しかったが、2週間後には皆さん元気にしていることを期待し、健康状態をチェックしたいと思っています。



宿泊先



初日の豪華な夕食



越前海岸にて



全員で夕食の準備



西川さんがさばく刺身

山行報告書

京都田辺山友会

平尾 繁和

山名	岩籠山 (765m)		山行名	個人山行		
ルート	市橋登山口～堰堤～山コースとの分岐～岩籠山～駄口登山口					
山行日	2020年8月7日(金)		天候	曇りのち雨		
参加者	CL:平尾 SL:藤村		女性4名、男性4名			
	上田、大林、河野、竹原順、竹原絹、西川敏 /8名					
ルート概略 省略	コースタイム					
	地名		時:分	地名		
	京田辺			岩籠山	着	14:02
		発	7:00		発	14:10
	市橋登山口	着	9:45	p 708	着	14:40
		発	10:20		発	14:40
	堰堤	着	11:40	奥野山	着	16:08
		発	11:45		発	16:08
	分岐	着	13:05	駄口登山口	着	16:45
		発	13:40		発	
<p>市橋登山口につき準備、車3台で駄口登山口に向かい国道161号沿いの駐車場に2台を置いて戻る。来る途中ばらついてきた小雨もやみ、沢組と分かれ先に出発。山道に入ると左手に沢が流れ最初の渡渉地点で追いついた沢組と分かれ沢沿いの山道に行く。長梅雨の水を絞り出すように水量が増えていた。小さな滝が幾つもあり、ミストがかかり涼しかった。ゆっくりとすすみ、黙々と渡渉を繰り返すこと十数回?沢の横につけられた樹林の中の道で高度をあげていく。足下にはヤマジノホトトギスやキンミズヒキの花、木にはガマズミの赤い実が見られた。堰堤を幾つかこえポイントの堰堤には11時40分につく。沢の源流部で山道は右へ曲がり急坂をのぼると稜線にで、夕暮山との分岐につく。ここで遅い昼食をとる。ブナに囲まれたいいところ。分岐から一旦下りブナ林を登り返す。このころ日がさしてきたが、まもなく遠くから発雷の音が届いた。左手の斜面を上ると岩籠山(三等三角点)、360度の眺めで日本海や琵琶湖、若狭、湖北、越前の山々が見えるというのが遠方のかすみ、東のインディアン平原ははっきり見えた。急な坂をゆっくり降り、草原の左のインディアン平原は遠くから眺めるだけにして下山する。まっすぐなブナが立ち並ぶ気持ちのいい道が続く。ピーク708を越え、乗鞍岳に続く主尾根を右に見送り左に下る。雑木林を下る途中から雨が降り出す。雨具をつけ慎重に先へすすむ。奥野山(362m)の通過は、登山道の途中の木に見逃しそうな小さな札がついていて気が付いた。最後の長い木の階段を下り駄口の食堂(営業していない)に全員無事到着。後半は雨に見舞われたが市橋から駄口へと念願の山を歩いてよかった。次回来るときは、駄口コースで秋のブナ林とインディアン平原、山頂からの展望を満喫できたらいいなと思いました。</p>						
ヒヤリハット なし						



ガマズミの実



リョウブの花



ヤマジノホトトギス



キンミズヒキ



岩籠山山頂にて



最初の渡渉点、沢組出発



渡渉を繰り返す



夕暮山（山コース）との分岐



岩籠山から下山



遠くみるインディアン平原



ブナ林の中を



山行報告書

京都田辺山友会

報告者 山下 隆

山名	岩籠山	山行名	市橋川白滝沢			
ルート	駐車場・・最初の渡渉地点～～沢～～最初の堰堤～～(沢・登山道)～～駐車場					
山行日	2020. 8. 7	天候	曇り			
参加者	リーダー：丸山 男性：若林、山下 合計：5名	サブリーダー：西川洋 女性：伊藤多恵子				
ルート概略図	コースタイム					
	地名	時：分	地名	時：分		
	松井山手	集		堰堤 (昼食)	着	12:00
		発	7:00		発	12:30
	市橋駐車場	着	10:00	市橋駐 車場	着	14:00
		発	10:20		発	
入溪	着			着		
	発	10:35		発		
<p>山行報告</p> <p>夏の低山は暑いばかりなので、沢や川遊びで涼が楽しめる所はないかと福井県内の沢で、初めての人でも行けそうな所を探しに探した。運よく、沢と登山道が平行していて、無理な時は登山道にエスケープ出来る所が見つかった (INDEX 福井県の沢歩きを楽しむところ。沢の風・森の風)。しかも、京田辺から実家に行く途中にある。参加予定者の中には西川洋さん以外は沢の経験は無く、無事に行けるか心配。勿論自分も初体験だ。</p> <p>丸山顧問にお願いして事前の講習会を開き、装備品の教えをいただき、同時に若林さんのロープワークの勉強。それでも、沢組は5人/13人。涼しさよりもリスクを避ける方が多かった。</p> <p>入溪地点で登山組に沢組の勇姿の写真を撮ってもらった後、いよいよ出発！ 小生、一步を踏み出すやいなやバランスをくずして下半身は即水の中。登山組から歓声が上がる。いきなり体も肝も冷やし、先が思いやられた。その後はストックでバランスを取れば水中歩行も上手になる。ストックも一歩先の水深を測るのに活躍する。3630円でゲットしたフェルト底の靴は滑ることなく活躍する。なるべく先行者の足跡を歩くようにと指導を受けるうちにだんだん上手くなる。腰まで浸かる所は2～3ヶ所。滝を迂回すること数か所。</p> <p>がんばれそうな所はロープの助けで登る。一つ難関をクリアするとその都度歓声があがる。チョット無理をしてクリアすると上達する・・・とCLの声。終点の堰堤上の広場で昼食休憩。寒さを感じる位で涼感を楽しむ。上流の沢は魅力なさそうなので、ここで下山とした。3人は再度沢を下り、2人は登山道を下ることにした。沢下り組は皆さん童心に戻って嬉々として下ったとか。大小含めて全部で15以上の滝があり、無理そうな数か所は巻いた。初心者向きで、大いに楽しんだ。また 沢に行こうとの声も聞こえた。</p> <p>ヒヤリハット ナシ。 但し、腕時計を紛失し、ストックを拾う。</p>						



20 数年ぶりの沢登り

伊藤多恵子

沢登りは二度とするまいと思ったのは 20 数年前。その決意は固かったはずなのだが、心が傾いた。理由は簡単。①初級の沢を 1 時間程度、滝はすべて巻く②丸山さんにサポートに来てもらう、という山下さんの計画のためだ。これなら行けるかも？山下さんも参加するとあれば、私もガンバロウという気になる。幸い、押し入れの隅に沢靴も鎮座していた。もう使ってくれないのかな…寂しいなあ…という顔をして。もちろん、底が剥がれないかチェックしておく。

当日、その靴を履いたとたんファスナーの引手が取れた。そんなこともあろうかと用意しておいたテープですぐに応急処置。さあ、出発。登山組と別れて 5 人で沢に入ると、けっこうの水量。流れに負けないようにバランスを取って歩く。冷たくて気持ちがいい。N さんが先導してくれるので、安心してついて行く。W さんは初めてと思えないほど達者に歩く。すぐに小滝が現れる。滝はすべて N さんと丸山さんがチェックしてくれて、危険だと判断すれば巻道を取る。私と山下さんはすぐに「巻こう、巻こう！」と叫ぶ。でも、補助ロープを使って小さな滝を登らせてもらってから、3 つぐらい登った。一度は脚が上がらなくてすり落ちそうになり、顔にシャワーを浴びた。一度は数メートルの崖をよじ登った。1 時間 45 分かけて目的地の堰堤までたどり着くと、思わず小さな声で「バンザイ！」。山下さんと固く握手。他の 3 人にもお礼の言葉と握手。時間的に岩籠山への登山をあきらめて、昼食後下ることに。もっとも、満足したのは私と山下さんだけだったようで、物足りない 3 人はそこから沢を下って行った。ナメリ滝をお尻で滑って下りたという楽しげな話を後から聞いた。

私の登山アルバムの最後の方の 1 ページにもう一度沢登りを加えることができ大満足。一緒に歩いて下さったみなさん、本当にありがとうございました！

なお、福井宿での楽しい思い出は山盛りでしたが、このご時勢に、そのすべてを書くのは気がひけます。そっと胸にしまっておくことにします。

二泊 3 日の福井県 岩籠山と滋賀県大黒山登山感想文

若林 憲治

新型コロナ対策で日程を短縮 密対策も考慮(二泊 3 日組と日帰り組)に分け車も 13 名三台に乗車 松井山手を 7 時 00 分過ぎ出発 岩籠山登山口に到着後も登山組(8 名)と沢組(5 名)に分かれて行動 以前より何度となく誘われていたが中々 踏ん切り付かずで有った沢登り 今回 M 顧問の事前指導とアドバイス(沢シューズ調達等)で初体験の沢組にエントリー 当日かなり気温も上がっており、水分は充分持参すべしとの事で有ったが約 2 時間清涼な沢登り昼食時間の 12 時頃まで一滴の水分も吸引する事なく沢を楽しむ事が出来た。水量も適量で有ったが滝は危険度も増す為 4/9 程の滝をクリア 下山も沢を 3 名で下り今度は滝つばに挑戦ダイブを楽しんだ。登山組と待ち合わせの合流地点へ移動 数時間待機の間 スコールあるも沢組は雨への免疫が出来ており余裕で待機 下山組雨にたたられお気の毒 全員合流後日帰り組(4 名)と別れ 9 名は Y さんの奥様の実家で有る越前海岸に移動近場の温泉にて汗を流し 夕食 前日から我々宿泊組の為作られた O さん(日帰り)手料理のお陰で豪華な夕食にありつけた。とても美味しいボリュームたっぷりのハンバーグに 本当に感謝 感謝 翌日は過去に坊主に成ったことが無い(Y さん)波止場で小鰻釣り事前の情報通り 9 名全員で約 200 匹ゲット 大半の参加者が釣りは初体験 今回の釣り体験で登山(山友会)から海釣り(釣友会)に興味変更者も心配する程楽しんでおられ素人に釣られた小鰻には大変気の毒では有るが癒しの時間を楽

しんだ。

釣りを終えお昼には武生迄移動 地元でも美味しいと評判の越前お蕎麦さんへ

昼食後近場にて夜の買い出しも行い 各位が担当を行い Uさん Nさん料理担当 Nさんは大物釣れを予想? 数本の包丁を持参手際よく小鯔の開きを料理され夜のお酒のお供には充分も矢張り小鯔では料理の実力を発揮できず魚店でハマチと烏賊を調達 同時に料理教室も開催 魚は魚店にて並んだ切り身を食べるものと自画自賛者で魚の三枚おろしの経験のないIさん率先して生徒に成るも アラダキ用にも切り身がしっかりと付いており切り身の美味しさと味付けの美味しさと見解は分かれるも何れも美味しく頂けた事に違いはない。

楽しい二泊目の時間も過ぎ翌日の登山(大黒山)に備える。三日目は天候に恵まれるも気温は上昇(国道気温 38度c) 旧道が閉鎖されており登山口までは50分程要すアクシデントもほぼコース設定時間内で下山 大黒山はブナの木が沢山あり登山口から間もなくブナの巨木(樹齢 ?年)が我々を暖かく迎えてくれた。

前日買いこんで持参し下山後頂いた西瓜 なんと美味しかったか

来年の計画案が飛び交う中 全員無事に帰宅。お疲れ様でした。改めてOさん有難うございました。来年のイベントには宿泊組で是非参加下さい。

料理に腕を磨いたIさん始め全員で料理担当致しますので大奥で料理の出るのをお待ち頂き次回は食べる役に回して下さい。

上田 秀子

福井合宿に参加して一番楽しかったのは魚釣りでした、朝早くから山下さんと若林さんが行ってるのでちょっと覗いて見ようと波止場に行くと竿を持たされ、やってみると釣れるわ釣れるわまたたく間に25匹ほど皆さんで200匹以上釣れ夕食の一品になりました。初めての体験とても楽しかった。山下さんありがとうございました



大黒山頂上にて

山名	大黒山	山行名	福井合宿（個人山行）	
ルート	国道 365 号線椿坂峠→大黒山頂上→椿坂峠			
山行日	令和 2 年 8 月 9 日	天候	晴れ	
参加者	CL 藤村 SL 山下 西川 洋 竹原順治 竹原絹江 上田 西川敏彦 伊藤多恵子 若林			
	コースタイム	標高 700M 発	11:25	
	地名	時:分	頂上着	12:15
	椿坂峠	10:45	頂上発	12:50
	標高 700M 着	11:20	椿坂峠	14:00

福井合宿の 3 日目帰り道の椿峠より余呉トレイルの一部の大黒山に登る。365 号線を滋賀県に向かい南下して椿峠から登る予定であったが、椿峠トンネルができたので、その区間の 365 号線が閉鎖され椿峠まで車で行くことができなかった。やむなくトンネル南側の 365 号線進入止め箇所にて車を止め、椿峠までの蛇行した国道を約 50 分かけてゆっくと歩く。途中の国道は長らく管理されておらず落石が放置された又道路脇の草も生え放題であった。椿峠より大黒山頂上まで水平距離で 1.6 km・垂直距離で 391m、標準歩行時間 1.5H である。登り口には道標がなく YAMAP で確認した。涼しさを期待していたがそれほどではなく、さらに暑くなり、また当会の力量からすれば、とてもこの時間では登ることは無理で 1.5 倍位は掛かるとの話がある。登り口に道迷いで遭難した人の新聞記事が注意を促すため置いてある。登り始めるとすぐに階段があり、できるだけゆっくと登る。しばらくするとブナの巨樹が現れる。階段が終わると今度は V 字に凹んだ粘土質の傾斜のある道が続く。滑らないよう爪先を立て回りの木を持ち踏ん張り登る。10 分で 5 分休みのスローペースを 2 回繰り返す、その後は 20 分で 5 分休みのペースで頂上まで登る。途中の眺望箇所は木立に覆われ何も見ることができなかった。休憩の都度水を飲むように促す。休憩の都度、会長より YAMAP を見て位置と山の傾斜状況の報告があり歩行の参考になる。約 1 時間程登ると傾斜が緩やかになる。水場を過ぎると笹の繁る稜線に出て頂上に到着する。頂上は林の中で眺望もない所である。所要時間は 1.5H である。十分休憩をとりゆっくと登り標準予定時間より大幅に遅れると思っていたが、何故か時間通りで驚く。この予定時間は WEB で大黒山と検索した地図に記載された時間で、ハイキング用に設定した時間であると思われる？。頂上で食事を 30 分と記念撮影をして下山する。木の中程にぶら下がっている大黒山の看板に熊の絵が描かれており、もしや熊出没地域ではないかと思わず少し不安になる。帰りは登り道を逆下りすることになり、傾斜が急で滑りやすい道を横歩きしながら回りの木に手をかけて慎重に降りる。途中特に滑りやすい所は若林さんの指導によりビレイを渡し転倒しないよう注意した。何名かは尻もちをついたが、怪我をすることなく無事登山口に到着。所要時間は 1.15H で下りも標準時間通りである。車置き場まで 365 号線を約 45 分で下り戻る。眺望のよくない山であるが、中腹より上にはブナの林や紅葉が多くあり、紅葉狩りには最適な山である。暑い中、急勾配の山を時間通り登り降りされた皆様ご苦労さまでした。車置き場到着時に、西瓜を御馳走になる企画された山下さん段取り、手配と色々有難うございました。ヒヤリハット なし